

# はじめに



データサイエンス教育研究センター長

竹村 彰通

スマートフォンなどの情報通信機器の普及によって、世の中の情報の流れが大きく変化し、いつでもどこでもインターネットにアクセスし情報をやりとりする時代となりました。インターネットに蓄積される多様かつ膨大なデータがビッグデータであり、このビッグデータを対象とする新たな学問分野がデータサイエンスです。

滋賀大学では昨年4月に日本初のデータサイエンス学部を開設し、新入生110名を迎え入れました。北海道から鹿児島まで全国から、女子学生が3割程度、文系の学生が4割程度と、多様な意欲ある学生が集まりました。学部に先立ち一昨年の4月に設立したデータサイエンス教育研究センターでは、2017(平成29)年度にもデータサイエンスに関する価値創造プロジェクト研究などを勢力的に推進してきました。本報告は、2017年度のデータサイエンス教育研究センターの活動や、それらの活動から見てきたデータサイエンスの最新の動向についてまとめたものです。

データサイエンス教育研究センターは、研究機能や社会連携機能を担うセンターとして1) 基盤研究、2) 価値創造プロジェクト研究、3) 教育開発、4) 調査・情報発信、の4つの分野の活動を進めていきます。特に2017年度は、企業との共同研究の形で価値創造プロジェクト研究を積極的に進めてきました。その中で、企業が現在データサイエンスに期待していることや、センターから企業に提供できるノウハウも明らかになって来ました。共同研究の中で、いくつかの顕著な改善事例も得られています。

データサイエンスの技術的基礎はデータを処理するためのデータエンジニアリング(情報学)及びデータを分析するためのデータアナリシス(統計学)であり、これらの手法を、さまざまな領域の問題に応用して新たな価値を生み出していくこと(価値創造)が必要です。これらの能力を備えた人材をデータサイエンティストと呼んでいます。データサイエンスはすぐれて文理融合な分野です。データサイエンスの技術的基礎である情報学と統計学は理系的ですが、最近のビッグデータの中で最も価値創造の余地の大きいデータは人々の行動履歴に関するデータであり、データサイエンスの応用領域は主に文系と言えます。

今日、データサイエンスは国際競争力の源と考えられており、世界中でデータサイエンティストが求められています。日本ではいままで統計学部や学科が存在しなかったこともあり、この分野の人材不足が深刻です。実際多くの企業がデータサイエンティストを採用したい、あるいは従業員を再教育したいと考えています。このような需要に応えるため、我々は来年4月に日本初の大学院データサイエンス研究科修士課程を開設する準備を進めています。この修士課程では、さまざまな業種の社会人が集いオープンイノベーションの場として機能することを期待しています。

本センターは今後も多彩な活動を進めていきます。本センターの活動に注目していただくと幸いです。